



2018年12月15日

各 位

会社名 株式会社 マルマエ
代表者名 代表取締役社長 前田 俊一
(コード番号: 6264 東証第一部)
問合せ先 取締役 IR担当 藤山 敏久
(TEL. 0996-64-2900)

2018年11月度 月次受注残高についてのお知らせ

当社は、投資家をはじめとするステークホルダーの方々に、より正確に当社を理解していただくために、自社情報のタイムリー・ディスクロージャーを推進しておりますが、その一環として、下記のとおり2018年11月度の月次受注残高を開示いたします。

記

1. 月次受注残高 (百万円未満切捨て)

区分	受注残高	割合	対前月増減率	対前年同月増減率
半導体分野	534	72.6%	△6.4%	△18.5%
FPD分野	174	23.7%	10.1%	△17.9%
その他分野	26	3.6%	786.1%	97.1%
合計	736	100.0%	0.4%	△16.6%

2. 月次受注残高の推移 (百万円未満切捨て)

区分	2017/12	2018/1	2018/2	2018/3	2018/4	2018/5
半導体分野	646	730	774	788	814	785
FPD分野	229	306	311	323	362	360
その他分野	16	19	6	7	6	10
合計	892	1,056	1,092	1,119	1,183	1,156

区分	2018/6	2018/7	2018/8	2018/9	2018/10	2018/11
半導体分野	811	741	675	606	571	534
FPD分野	344	322	239	147	158	174
その他分野	8	7	37	22	3	26
合計	1,165	1,071	953	776	733	736

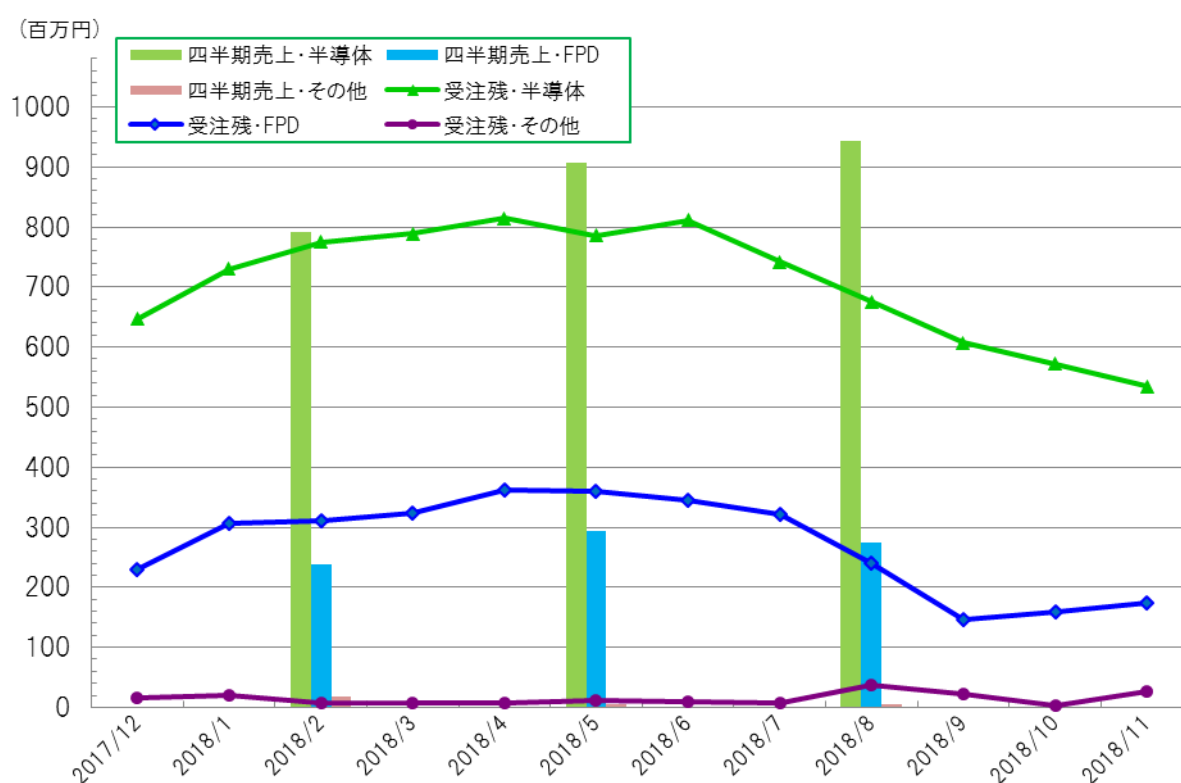
3. 月次受注残高の概況

2018年11月末の受注残高は、半導体分野においては、受注は2018年9月を底に回復基調となっていますが、生産体制の増強により出荷検収が好調に推移したことから、対前月増減率は6.4%減、対前年同月増減率では18.5%減の534百万円となりました。FPD分野においては、一定の受注を確保しながらも出荷検収に停滞があり、対前月増減率は10.1%増、対前年同月増減率では17.9%減の174百万円となりました。その他分野においては、主だった動きはありませんでした。これらの結果、2018年11月末の受注残高は、対前月増減率0.4%増、対前年同月増減率16.6%減の736百万円となりました。

今後の見通しにつきましては、半導体分野では、DRAM向けの投資が先送りされ、3D NAND向けに投資を続けていたメーカーについても投資規模の縮小が見られました。そのような中、ファンダリ向けが堅調に推移しているほか、CPU及びMPU等のロジック向けの投資案件が急回復しております。しかしながら、当社の生産力は出水事業所稼働に伴い大きく向上しており、DRAMや3D NAND等のメモリ向け投資が再開するまでの数ヶ月間は、出荷検収に対する受注が不足することで、受注残としては停滞傾向となる可能性があります。このような市場環境ではありますが、試作品への対応を進め、次世代の受注拡大を狙ってまいります。FPD分野では、中小型パネル向けは停滞しながらも大型液晶パネル向けの投資は順調に推移していることから、大型パネル向けの受注品種へ転換していく方針ですが、受注が切り替るまで数ヶ月間の受注残については停滞傾向が続く見通しです。その他分野につきましては、当社生産キャパの空きを活用し、太陽電池向けの量産品受注に向けた営業活動を行っております。

以 上

(参考：分野別 過去一年間の四半期売上高と月次受注残高の推移)



注1. 上記受注残高の数値は、速報値であるため、翌月以降に修正される可能性があります。また、監査法人による会計監査を受けておりませんので、本決算の数値とは差異が発生する可能性があります。

注2. 当社の受注残数値は、受注別に長短さまざまなリードタイムを持つことから、売上高と直接関連するものではありません。リードタイムの長い案件が増えると受注残が多くなり、リードタイムが短く当社月間生産能力範囲内の受注が増えると受注残が減る傾向となっております。